

都筑区教育研究会

1 研究主題（テーマ）

「確かな学力を身に付け、豊かな人間性を育む教育活動の推進」
～教育課程の創造・実践のなかで、授業力の向上と研究交流の広がりをめざして～

2 研究主題について

都筑区小学校教育研究会では、コロナ禍の中にあっても学びを止めないことを念頭に置き、今年度の研究をスタートした。研究過程の中で「主体的・対話的で深い学び」の理念に沿った主体的に学ぶ授業づくり、豊かなかかわりの中で個に応じた指導と評価等について研究を進めてきた。さらには、昨年度の学習指導要領全面実施を受け、教育課程の創造・実践を深め、授業力の向上と教職員間の研究交流が広がることを目指して本主題を設定した。

3 研究方法

- ・人数を制限した集合型の研究会開催
- ・Zoom及びClassroomによるオンラインを活用した研究会開催
- ・ビデオ撮影による授業研究
- ・会場校参加型の一斉授業研究会開催
- ・各校1名参加型の一斉授業研究会開催
- ・一斉授業研究会の報告会開催

4 年間活動(事業)報告

(1) 都筑区小学校研究会総会（書面による開催）

6月下旬 3月下旬

(2) 各研究部活動

【A研究部】

◇研究会

4月～2月 計11回

◇授業を伴う研究会

11月17日（水）

◇児童の活動を伴う事業

国語部：区児童書写展（校内書写展）

図工部：区巡回展

体育部：区球技大会（各校内での実施検討）

【B研究部】

◇研究会

4月～3月 計11回

◇授業を伴う研究会

1月26日（水）

◇児童の活動を伴う事業

学校図書館部：読書感想文 9月22日（水）

読書感想画 12月15日（水）

特別支援教育部：合同学習発表会(DVD交換による交流及びZoomによる感想交流)

5 研究の成果と課題

【成果】

- ・コロナ禍での研究ではあったが、昨年度から続く WEB 会議サービスを活用した開催方法の工夫により、学びを止めることなく研究を推進することができた。
- ・オンラインでの開催が増えることにより、教職員の ICT 機器を扱うスキルが向上している。
- ・オンラインでの研究会開催は、集合型に比べより多くの教職員が参加できる上に、出張がなくなることにより時間の削減となり、働き方改革につながった。
- ・GIGA スクール構想に伴い、一人一台の端末貸与が本格始動した。これにより、各研究部での情報交換の中に ICT 関連の話題が多く出され、様々な学びの方法が共有された。
- ・11月に開催したA研一斉授業研究会は、教職員の移動を役員のみとして実施した。会場校の教職員参加のもと、授業の様子や研究会の様子をビデオに撮り、翌月の研究会で学びの共有を図った。また、1月に開催したB研一斉授業研究会は、各校1名参加による実施を行った。感染対策に留意しながら、人数を制限した開催となった。AB研ともに、感染状況やガイドラインをもとに開催方法を模索し、安全に実施することができた。今年度の実績は、今後のコロナ禍において授業研を開催する選択肢のひとつとなる。
- ・昨年度に続き、総会は対面ではなく書面によって行った。総会資料をデータで配信することで、紙の削減となった。集約も電子媒体で集めることで、効率化を図ることができた。
- ・コロナ禍での研究会開催が続き、例年行ってきた内容や方法を見直しながら実施を進めてきた。今まで当たり前のように行われてきた研究会の事業、行事、会の持ち方を見直すよい機会となっている。

【課題】

- ・コロナ禍の中、実践が難しく研究が深められなかった部分もある。次年度に向け、各研究部において研究主題や内容の継続があってもよい。
- ・今年度は、各研究部の名簿を事務局側で作成したが、学校側の提出と研究部の把握に差異があり調整に難航した。次年度は、各研究部が各校の部員を把握し作成することがよいと思われる。
- ・水泳記録会、球技交流会、児童音楽会等、昨年度に引き続き中止となっている。コロナ禍における開催方法については、今後の検討課題である。